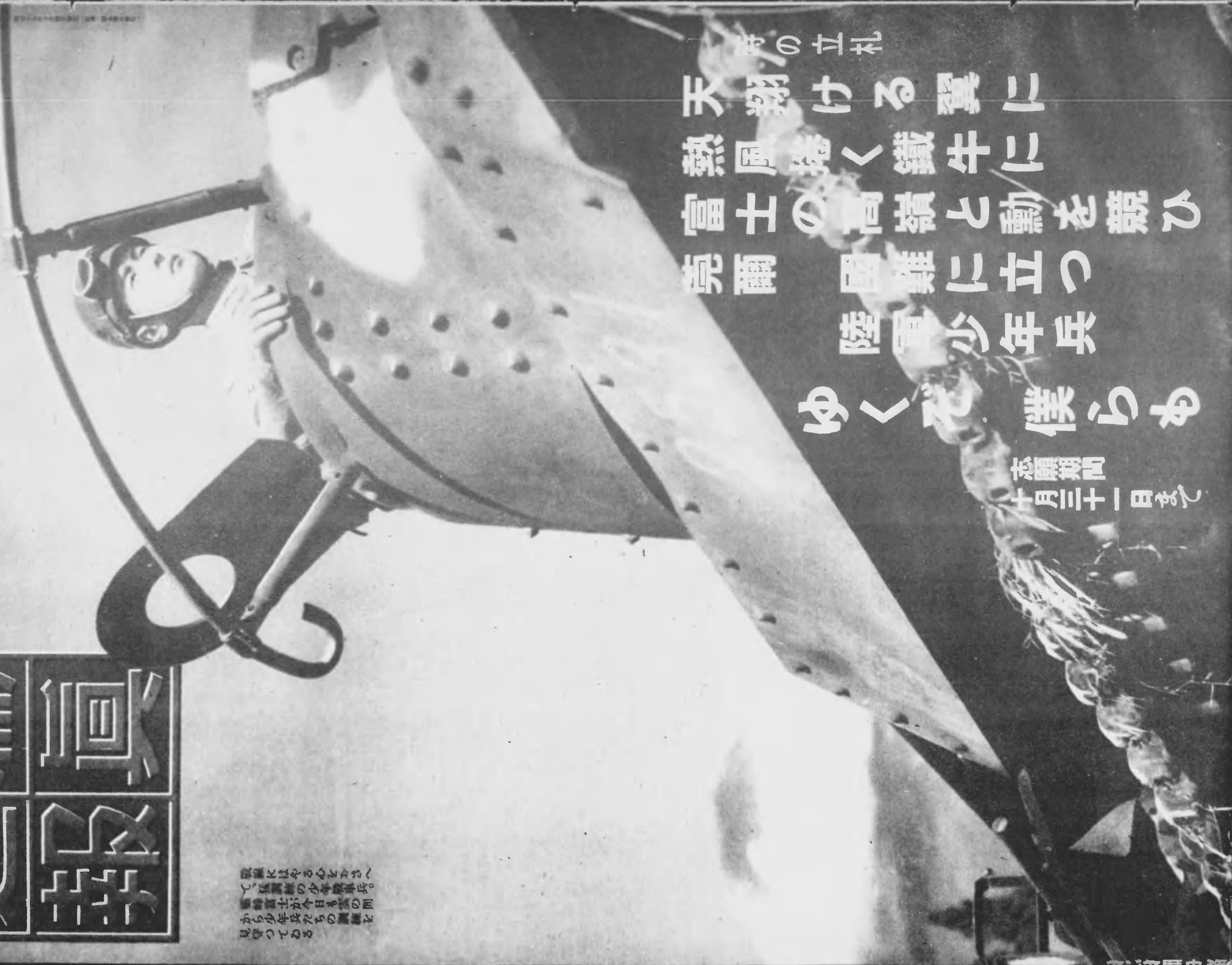




情報編局輯十第・日四月三第・一四一號

真高週報



戦線にはやる心をこめて
て、真高週報の少年陸軍兵。
富士が今日も雲の間に
から少年兵たちの訓練を
見守つてゐる

天の立札
天翔ける翼に
熱風捲く鐵牛に
富士の高嶺と勲を競ひ
亮爾 國難に立つ
陸軍少年兵
ゆくぞ 僕らも

志願期間
十月三十一日まで

「ドイツと英米は千百年の運命はここに賭けられてゐる」と
 ヒトラー總統は開戦の初頭の一九三九年秋にはつきりと宣言してゐる。今や正に二千年の運命を決すべき開戦の際にドイツは立つてゐる。ドイツは今や西部戦線ではジークフリート嶺に戦を引寄せ、一方、東部戦線では二ヶ月餘に七百キロ後退して、國境に接近の陣を布いてゐる。開戦以來六年を迎へて、再び開戦當初の戦場に戻つたドイツは、攻め保した兵力とこれまで餘裕を味してあつ

た國內の青壯人員を動員して、ここに最終的な決戦を挑まんとしてゐるのであつて、開戦以來最大の危局に直面してゐるのである
 × × ×
 今が一番苦しい時期であることは、ドイツ國民が自身よく知つてゐる。スタヴリンградの連戦以來、内外の電報文々至る難局は差し想像に對するものがある。しかし、盟邦の諸新聞が「民族戦争」と新たに呼んでゐる如く、この艱難を神がドイツ民族に與へた試練として、驚愕と立つたドイツの國運こそ、

悲壯の限りである
 しかしながら、徒らに憂ふことも、悲しくともない。戦ひに一進一退があり、起伏があるのは當然であつて、且つ味方の苦しいときは敵もまた苦しいといふことは戦ひの原則である。勝利の中に難局があり、苦戦に勝利がひそんでゐるといふのは、單なる逆説とはかりひききれない。それには黙つて後止まむの氣概が發揮されねばならぬ。さればこそ、ヒトラー總統は

「ドイツ國民が現在経験してゐるこの時期には無数の精神力と決戦力とが必要である。ドイツ民族存亡のこの最大の戦ひに各個人の任務は、勝利のため絶えず闘ひ、且つ働くことである。われらの行動はことごとく如何なる難局にも屈しないといふ原則によつて導かれてゐる」と

設いてゐるが、正にその通りであつて、ハムブルクに對する敵の波状空襲にも對して来たドイツ國民が、小さな同盟國が隊列から離れ、國境に敵が迫つたから、苦しいからといつて、降伏しようなどと考へるものではない。殊に勝利か、滅亡か、生か死かを知りぬいてゐるドイツ國民の戦意は、この苦難にますます昂りこそすれ、決して衰へることはない。敗戦の悲惨な苦しみはドイツ國民が身を以て體驗してゐる。史上空前といはれたさまのヴェルサイユ條約で、ドイツの失つたものは、

土境 海外領地全廃、アルサス、ローレン(フランス)、ポズナン、西プロシヤ(ポーランド)、モレネー、オイベン、マルメチ三地方(ベルギー)、ダンテラヒ(自由市として獨立)、メーメル(リトアニア)、ザール地方(フランスに附屬)、シレシヤ(ポーランドに附屬)、エムデン(ポーツランドに附屬)

引渡した物品 總トン重千六百トン以上の全部、一トトンから千六百トンの間の物品の四分の一、西川船渠の五分の一、機關車五千輛、軍用車五千輛、トラック五千輛、擧げられた領土と領民地における全所有財産、聯合國及び公認諸領土内のドイツ人の全私財

などであつて、このために後年二百億マルクが邦債の一般に當るといふ有名なインフレーションの原因となり、文字通り破滅の苦しみを経験した。負けたことはドイツ國民が誰よりもよく知つてゐる。しかも敵は皇者の未來である。現にルーズヴェルトは「日獨が戦争の國境に至らぬ前に交渉をやめても、反響は兩國を占領するまで影響しつゞけよう。第二次大戦ではドイツ領に侵入する前に戦争をやめたから、ドイツは再興した。今度はこそやめる裏手を覚めよ」と地上から抹殺せん野望を露しりしてゐるのだ

× × ×
 絶望の底に敗北となるか、不撓の國運

頑張れよ 勝利は必ず在り



「優秀な一機でも多く」機師養成の女子
 工場は陣線心に働きと奮起
 「千機でも三千機でも、みんな叩き出すよ」女子工場
 は最新型機の生産に邁進の熱情を燃やせてゐる



「軍需工場に働いてついでに兵隊の増進に大奮闘を續けてゐるドイツの青年軍

軍備 陸軍十万人、海軍十万人に對し陸軍兵制の改革、ライン地方の海軍基地、ヘルゴランド島の防備増強、キール運河以下南川の自由航行
 賠償金 千三百三十億マルクとし、年令として三十歳以下と輸出税の二割、その他賠償物として輸入の自由、國內における聯合國古軍の全軍、聯合國國境に對するあらゆる年金

とは、ドイツの兵法家クライゼヴィッツが唱へたところである。ドイツ國民はこの教訓をいま實踐せんとしてゐる。屍を積み、最後の一兵まで、祖國防衛に殉せんとしてゐるのは、昔に國防軍將兵のみではない。武装親衛隊、武装突撃隊にも及んで、東プロシヤ地方では十五歳から六十五歳までの男子が戰場から戰場へ、國境の無防備に出勤し、ヒトラー・エーゲンも従來の軍の補助任務から第一線的な配置に就いてゐる。女子にはこれまで、ナチスの方針として武器を執らせなかつたが、電探探知機、高射砲の觀測の任務に就いてゐる。國民はその全力を盡さず送り出し、あらゆる努力を傾けつくし、奪れども止まぬ氣概をもつて、敵を徹撃せんとしてゐるのである



「軍需工場に働いてついでに兵隊の増進に大奮闘を續けてゐるドイツの青年軍

を以て勝利を勝ち得るか、道は二つしかない。誇りある民族がどちらを選ぶかはいふまでもない
 『國民は祖國の危急に最後の血の一滴まで防衛のため流さなければならぬ。この決死にあらば、征服されるものではない。萬一、猛烈な奮戦の後、たとへば運んで斃れるとも、この氣概は必ずや國民の再生と復活を確保するであらう』

と、ドイツの兵法家クライゼヴィッツが唱へたところである。ドイツ國民はこの教訓をいま實踐せんとしてゐる。屍を積み、最後の一兵まで、祖國防衛に殉せんとしてゐるのは、昔に國防軍將兵のみではない。武装親衛隊、武装突撃隊にも及んで、東プロシヤ地方では十五歳から六十五歳までの男子が戰場から戰場へ、國境の無防備に出勤し、ヒトラー・エーゲンも従來の軍の補助任務から第一線的な配置に就いてゐる。女子にはこれまで、ナチスの方針として武器を執らせなかつたが、電探探知機、高射砲の觀測の任務に就いてゐる。國民はその全力を盡さず送り出し、あらゆる努力を傾けつくし、奪れども止まぬ氣概をもつて、敵を徹撃せんとしてゐるのである

すべてのものを失ひ、さらに身を縛められるのみとなつた國民は猛虎の如く戦ふであらう。しかもドイツ國民には、炎のやうな燃えさかる愛國の至情を抱いてゐる
 × × ×
 戦ひは土地を失つても負けてはいない、後退しても負けてはいない。負けると思つたときに敗れるのである。しかし、ドイツ國民が敗れずとの信念を堅持し、渾身の力をこめて戦ひぬかんとしてゐる限り勝利は約束される
 全員戦死して悠久の大義に生きるわが國の尊い殉難の精神を學ばんとするドイツに、われらは單なる盟邦としての親愛をこえて、血の親愛を感じる
 太平洋岸を洗ふ波はキール軍港にも波うち、東京の空はまたベルリンに通じてゐる
 一見距たること遠き東亞の戦局とヨーロッパの戦局は二にして一つである。驕敵を撃滅する道も一つである。樞軸一心の結盟を艱難にいよ／＼固め、日獨一體となつて、米英粉碎へ邁進せんのみである。勝利はこの鋼鐵の信義の上に築かれるのだ

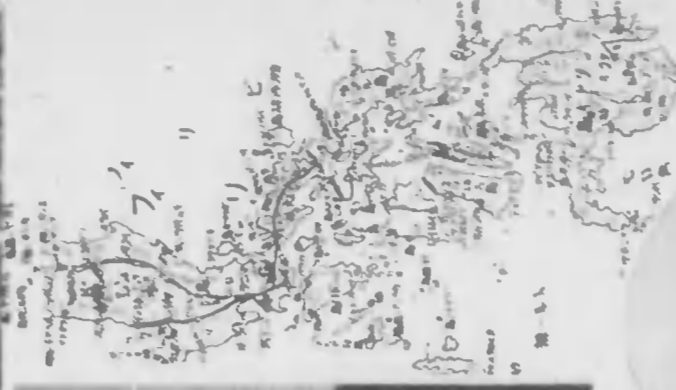
戦参。比。の 第一線に立つ



〇 断じて侵ませじ 比島千八百万の民衆は憤怒に燃えてゐる



〇 千八百万比島民衆を率いて立つラウレル大統領



のなり』
とあくまで米英撃滅の決意をのべてゐる
かくて大東亞の諸國諸民族は悉く大和團結
相携へて東亞解放の聖戦に従事することにな
つた。三年前、誰がかゝる盛事を豫知し得た
であらうか。誰を決して起つた東亞十億の民
族が、敵の東亞再侵略を許さず、必ずやこれ

九月二十三日午前十時、フィリピン大統領
ラウレル氏は、フィリピンが米國及び英國と
戦闘状態に入る旨を宣言し、フィリピンは
遂に参戦した。大東亞戦争勃發以來二年九ヶ
月、大東亞の戦局は日毎に苛烈の度を増し正
に決戦の機を迎へんとする時、千八百万
フィリピン國民は、その光輝ある獨立を擁護
し、祖國の本土を防衛するため、驟然領を執
つて起つたのである

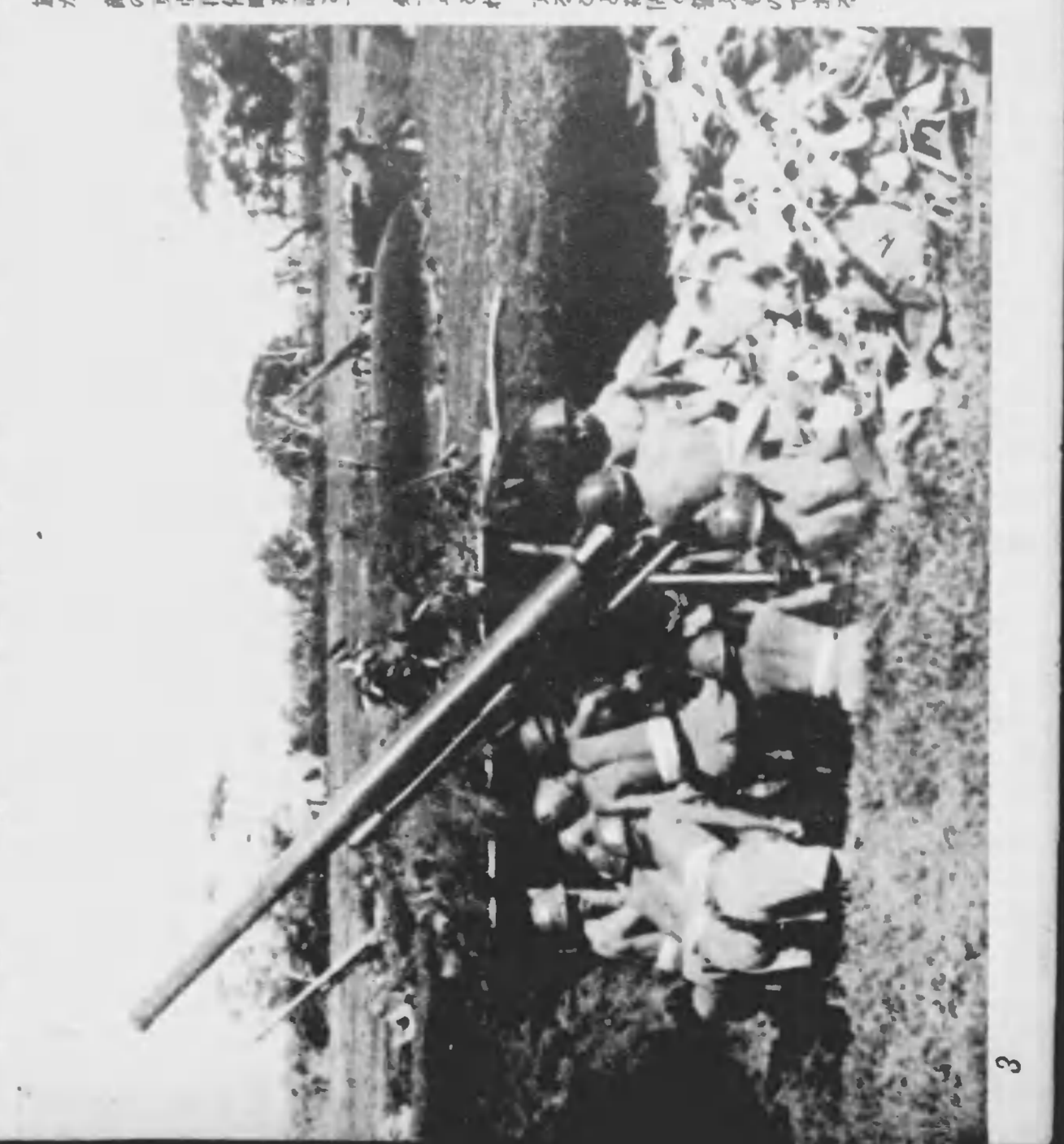
昨年の秋光榮ある獨立を具現して以來、フ
イリピンはラウレル大統領を隨頭に内は着々
内政を整へ、外はわが國始め大東亞の諸國と
緊密に協力して大なる建設の歩みを續けて
きたが、今や驟然と敵米英撃滅の第一線に立
つた。ラウレル大統領はその電報の布告にお
いて

『…共和國大統領は全世界の諸國民に對し
親睦と融和とを訴へ特に米國に對しては我等
の國土に軍作戦を再び繰返し、比島に災害と
破壊を及ぼさざるやう請願せり、かゝる請願
にも拘はらず米國並びに英國は比島の若干地
域を空より侵襲し、共和國の領土保全を侵害
し、さらに比島市民を殺傷、比島人財産を破
壞せしめたり、今や比島はその獨立と領土保
全を擁護せざるを得ず』

と参戦の理由を明らかにし、また
『…現在我等が経験し、また近き將來豫る
ことあるべき辛酸にも拘はらず我等固き團結
の下に比島の自由と獨立を擁護せんとするも

〇 國を守る責任は、僕らの双肩にある。誓つて積
年のうちみを償はず。米らば、米れと日英調練
に闘む比島青年

〇 祖國防衛に比島民衆が立上るや、わが比島軍
官の糾纏また機師の陣を布いて、日比一線の突
全防衛なる



青春來 少軍陸★

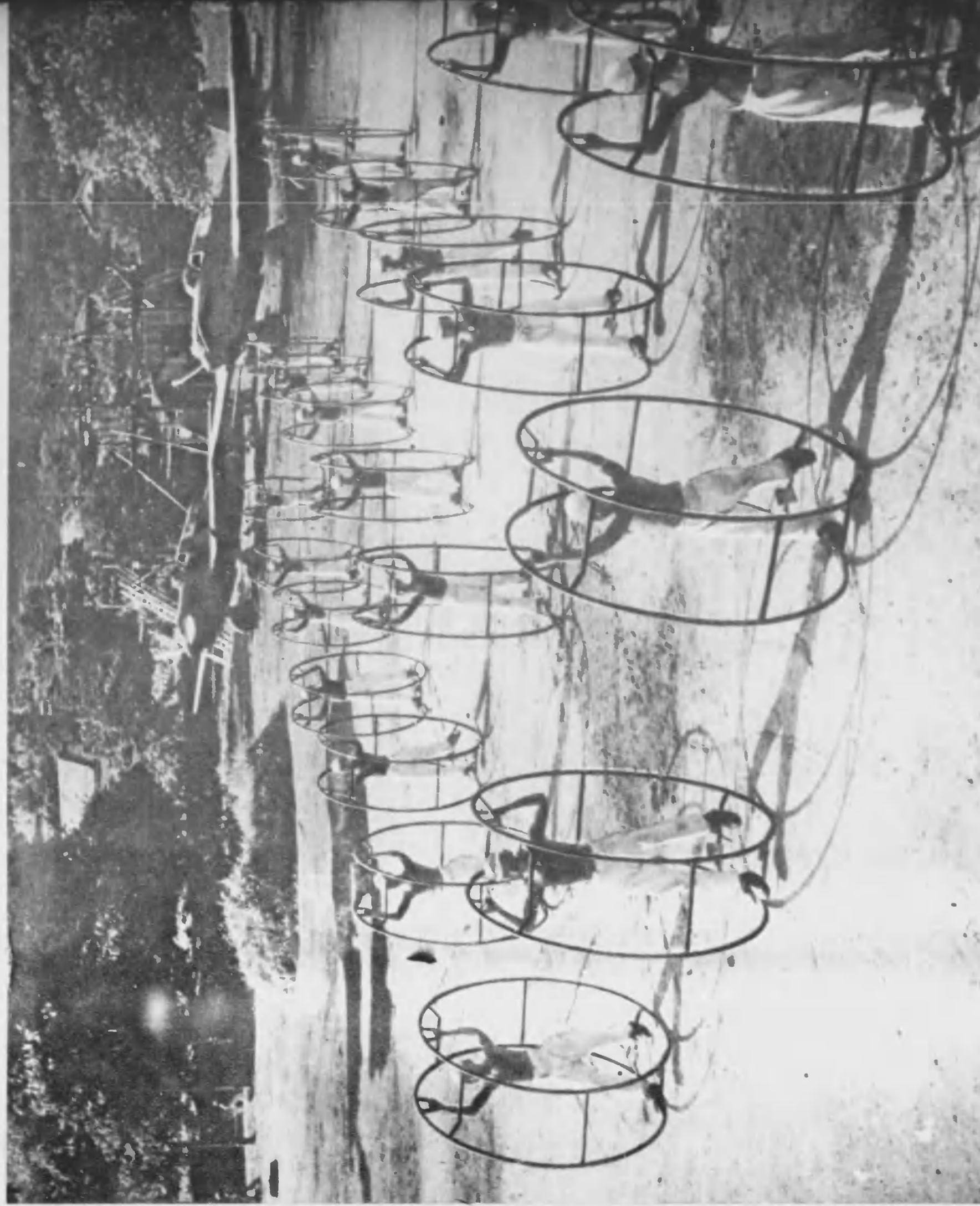
航空の空！ 來

航空決戦が今日作戦の主動的の役割を擔つてゐることは今更ごに述べるまでもない。では航空決戦の必要の點は何であらうか。航空決戦は空する人と人との戦ひである。決して物質と物質の戦ひではない。さしあて優秀な航空部隊を擁護する人々によつて敵を完全と撃滅するのである。

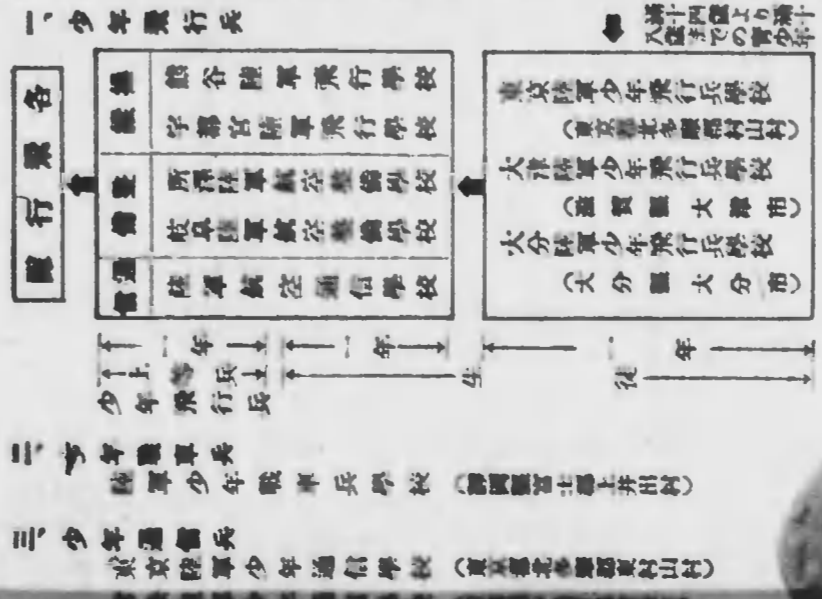
航空作戦は、しからばいかとして行はれるのか。一日に申すことは出来ぬが、要するに作戦計画に基づいて主動的に指揮官の思ふやうに航空部隊に作戦を實行することである。単に飛行機と人員だけあつても駄目なのである。一切の航空関係の運轉の総合した能力を集中發揮して初めて達成出来るのである。

必要なのである。それは人間の性質上からどうしても二十歳前後の青年でなければ急速に技術を覚えることもできないし、また直ちに實際の役に立てないからである。特に空中勤務者は優秀な航空勤務者が行はれる。航空機は検査の結果、生れながらして飛行不適の人がゐるからである。また眼が近い人は絶対に空中勤務には適目である。

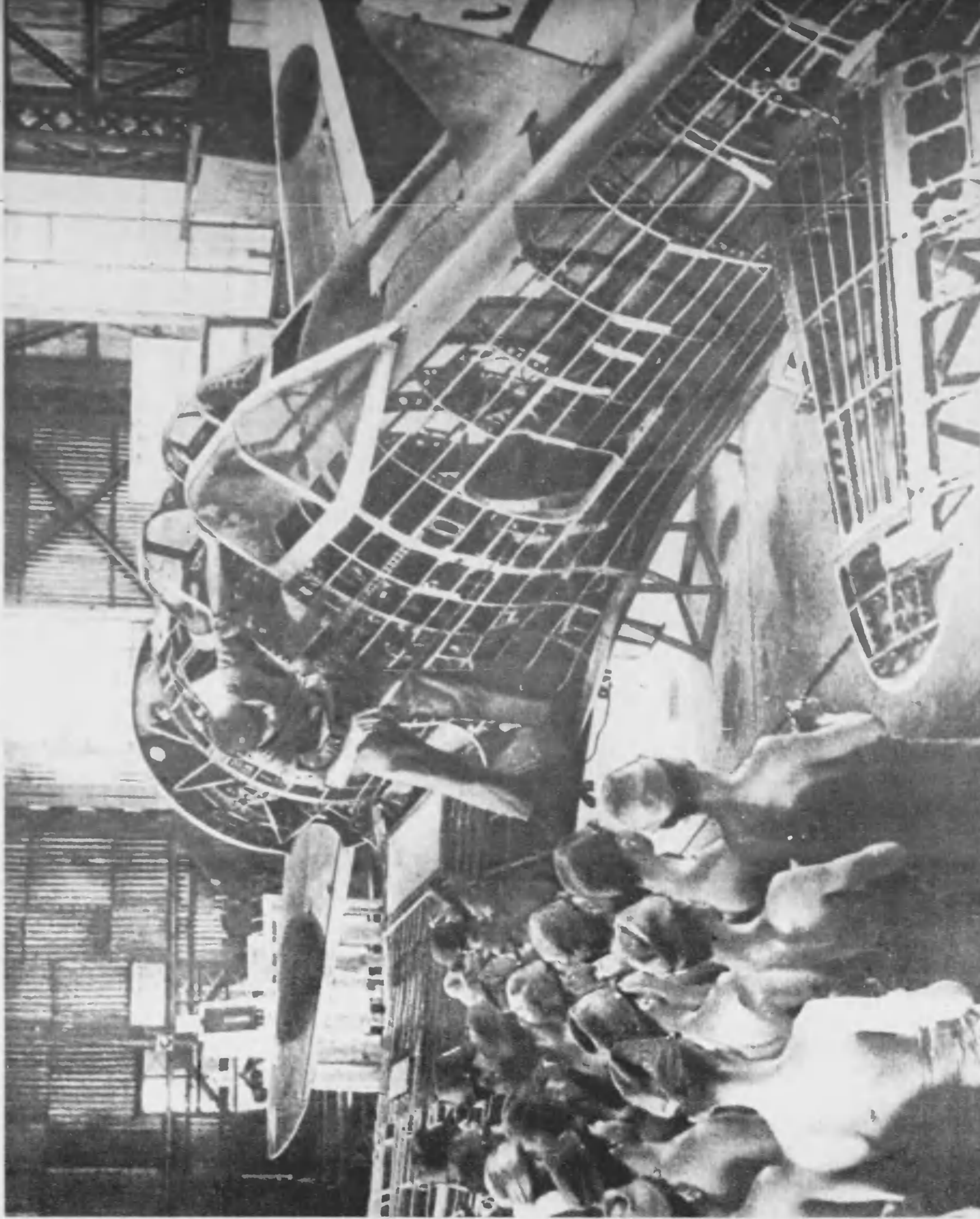
さて若少年飛行士！ 空中勤務者は先づこんな厳格な身体検査があるから、自分は國家の御役に立たぬと思つたら大きな誤りである。然るるが如き熱血の愛國の精神があれば通信と整備に十分眼を注し直ちに明日の航空作戦に參加することが出来るのである。



つむねさかを特訓の夜日いし候 とうしよにのものが我を魂意意の々望がたへ一服を體自に體自の體自のこ はちた徒生の校學兵行軍年少軍陸少軍陸 少軍陸を體此



- イ 本年の募集者滿十四歳十歳十八歳 (昭和二年四月一日以前に生れたる者)
- ロ 本年の志願期間 十月三十一日まで
- ハ 學校の預期若年志願者は、志望の學校または各地の聯隊司令部、各市町村役場へ六封手を封入して申込行と送つてもらへる



いよまといに成求の「兵行軍年ば要」られこれに校學軍航空航軍陸陸所 るあが員備常るけ結を苦勞の汗に汗修や入丁の習機機はに修の果戦人 いよまといに成求の「兵行軍年ば要」られこれに校學軍航空航軍陸陸所 るあが員備常るけ結を苦勞の汗に汗修や入丁の習機機はに修の果戦人 いよまといに成求の「兵行軍年ば要」られこれに校學軍航空航軍陸陸所 るあが員備常るけ結を苦勞の汗に汗修や入丁の習機機はに修の果戦人



少年兵！

空の決戦へ

か、一日に中すことは出来ないが、要するに作戦に基いて主体的に指揮官の思ふやうに飛行機に作戦を執行することによる。軍に飛行機と人員だけがあつても駄目なのである。一切の航空関係の業務の総合した能力を集中發揮して始めて効果があるのである。

軍に空中勤務者だけがあつても近代の大規模な作戦を執行することは出来ない。通信が設備して多量の飛行機が日常に完全に出勤し得る状態になければならぬ。その空中勤務者も通信に任ずる者もまた通信に任ずる者すべては人である。しかも軍に人を集めることが出来るものではない。その代りに特別の教育と徹底した訓練が必要である。

さて少年兵！ 空中勤務者は先づこんな嚴重な身体検査があるから、自分は國家の勤役に立たいと思つたら大きな誇りである。恐ろしいが如き熱血の愛國の精神があれば通信に準備に十分力を盡し直ちに明日の航空作戦に参加することが出来るのである。

日本の運命を大運に決する時は今だ。それも航空決戦によつて決するのである。空の戦いは常に青少年諸君の双肩にかゝつてゐる。奮起せよ青少年諸君！ 決戦の大空へ進めば絶せまぜよ！ われらと共に大空の戦艦に附して勝ち誇りてはいないか

陸軍航空部 佐藤 正光



るれ生ら自は神解り高節 てつなと魂りなと血のちちた蒼者は純調紅の目産 るせさ習修々 言教編操飛行飛 はて校飛行飛軍陸谷縣へこ が備軍動出あさ

- 少年飛行兵
- 一、少年飛行兵
- 二、少年飛行兵
- 三、少年飛行兵
- 四、少年飛行兵
- 五、少年飛行兵
- 六、少年飛行兵



週刊



るむてせか舞を舞いし々者に念信の通信打一ひ思をささ重の務任きべるなと耳なりなと目の機行飛 は兵信通年少の(1000) 校軍信通空軍陸谷縣へけうで上池を純調の機知探向方上機



軍人保護の町づくり

〇 来てからまだ日の浅い
開いたヨイヨイたちも戦死
なされた方々のお墓を掃
除します

「兵隊さんよ、ありがたう」元気な歌聲が教室の窓から流れてくる。初等科の生徒だ。校庭には秋の空がさんさんと降りそそいで、爽やかな風がみちまわっている。学校には何か大きな活気が感じられる。

むべなるかな。埼玉県羽生国民学校は、軍人保護の優良校として軍事保護院から表彰された模範校だ。この八月、疎開してきたヨイヨイたちもたくさんまじって力を込め、戦死した兵隊の墓を掃らうと、健気な努力をかまわっている。校長先生を中心として、初等科の一年生までしかごんでこの立派な心掛けが模範校としての校風を自づとつくつてゐる。

いま同校の軍人保護活動を二、三紹介してみると、まづ児童たちが汗を流してゐる慰霊園がある。季節の初物は、忠霊堂の墓前に供へられて賑やかな奉奠式が行はれる。次いで忠霊に供へられた新鮮な果物や野菜は、早速ヨイヨイたちが手分けして警れの家にお届けし、自分たちもつましく焼香して慰霊に供へる。

班旗を先頭に整然と隊列を組んで登校するヨイヨイたちが、警れの家にさしかかると、「頭下ろ

〇 「僕たちが真心こめて作った野原です。」
忠霊の墓前に打掃へながら、忠霊堂に正座するヨイヨイたち

〇 忠霊堂の拜殿にお供へするため慰霊園のいも掘り「アツ、こんなに大きいのがあるぞ」



軍人強化運動 八月一日三月十

と、びりつとした敬禮をしてゐるのも、深持のよい風情だ。班長は、器具や作器や衣類などの修繕ものを留守宅や遺族家からおあつかりしては、学校の工作室や裁縫室で班員と協力して修繕奉仕を行ふ。またヨイヨイたちの手になつた標旗やポスターが、よきよき町の場所に貼り出されては、町民の活気を新たにしている。大人たちが、中負ふな子にとさゝやいてゐるのも微笑ましい。幼い力を込め、細い肩を組みながら、ヨイヨイたちが町の軍人保護に果してゐる力は決して少くないのだ。

〇 通學の路すがら陣ヶ警れの家とさしかかると、班員は此調をとる「頭下ろー」



〇 「すみません、この機織、まなほして下さい」
ヨイヨイたちの衣服の修繕を受持つてゐます。 〇 は工作の時間がありますから、まなほしてお届けします」



